

## ご挨拶

アビコム・ジャパンは、1989年 ACARS<sup>(\*)</sup>サービスを提供する会社として設立され、本年9月をもちまして創立20周年を迎えることになりました。これも、ひとえに、ご利用の皆様方のご支援とご厚誼の賜物であり、ここに、深く感謝し厚く御礼申し上げます。

現在、アビコム・ジャパンは、ACARSシステムの地上無線局を国内59箇所<sup>(\*\*)</sup>に展開し、さらに、高速通信が可能なVDL<sup>(\*\*\*)</sup>と呼ばれる地上無線局も国内10箇所<sup>(\*\*)</sup>に設置し、お台場にあるアビコムセンターでの厳重な監視のもと、24時間365日休むことなく、データ通信サービスを提供しており、一日2,200便を超える国内外の航空機にご利用いただいています。パイロットと運航会社との音声による通信に加え、データ化した情報の送受信、或いは、飛行中の機体やエンジンの状況を必要な関係先にリアルタイムに自動配信する等により、空の安全や効率的な運航を支援しています。

又、羽田空港では、航空機の発着業務を円滑に進めるために不可欠なMCA空港無線電話<sup>(\*\*\*)</sup>のサービスを提供しています。2004年末には、国内初のデジタル化を完成し、現在では、大手航空会社を始め、40を超える多くのお客様にご利用いただいております。今後、来年10月に完成が予定されている新国際ターミナルでもサービスを提供してまいります。

更に、一昨年には、地上駐機中の航空機と運航会社とのデータ通信サービスを開始しました。これは、ゲートリンクサービスと呼ばれ、無線LANにより大量のデータを通信する世界に先駆けたものであり、現在、羽田、成田および伊丹の各空港でサービスを提供しています。本年6月に米国で初飛行が予定されている最新鋭旅客機であるB787の運航には欠かせないものであり、今後、B787の運航路線の拡大に合わせ、国内他空港へもサービスの展開を予定しています。

今後とも、システムの安定運用を基本に、「空の安全と効率的な運航を支援する」をモットーとして、「航空のビッグバン」と呼ばれる、首都圏空港での発着便数が大幅に増加する2010年からの新時代に向け、より品質の高いサービスを提供し、お客様から一層の信頼をいただけるアビコム・ジャパンを目指し、全員が精励してまいりますので、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、20周年を迎えての御礼のご挨拶とさせていただきます。



2009年3月31日

アビコム・ジャパン株式会社  
代表取締役社長 信清 裕人

(注記)

(1)\*ACARS; Aircraft Communications Addressing & Reporting System  
(航空機と地上との間のデータ通信システム)

(2)\*\*2009年3月末現在のACARSとVDLの地上無線局展開数

(3)\*\*\*VDL; VHF Digital Link(デジタル化により、ACARSの約10倍の速度での通信が可能)

(4)\*\*\*\*MCA; Multi Channel Access(空港内多機能無線電話システム)